

< 白金標準先物、ペナントレンジの離脱待ちの状態・・・ >



(出所：オアシス)

中国の厳格なゼロコロナ政策で上海市は、3月28日からロックダウンが施行され2ヵ月を迎えている。特にトヨタ自動車は6月の世界生産台数を85万台と生産計画を発表したが、上海市の長期化するロックダウンの影響を受けた部品不足に、発表から3日足らずで5万台減少する80万台と下方修正している。また南アフリカのプラチナ鉱山では3年ぶりに4月1日から賃金交渉が開始しており、先週にアングロアメリカプラチナやインパラプラチナムは、年1100ランドの値上げの5年契約で合意するなど、白金価格の戻りを抑えた要因と見られる。

しかし世界1位のプラチナ鉱山であるシバニースチールウォーターは、同社の金鉱山で年1100ランド値上げ要求を拒否し3月からストライキ状態であるため同社の金生産量は40%以上低下している。特に他のプラチナ鉱山の合意は年1100ランドの値上げであり、同社の金鉱山の要求額と同様である事を考慮すると6月1日から開始するプラチナ鉱山の賃金交渉は長期化する可能性が高く、白金標準先物の価格においても3800円以下を下支えする要因に結び付くと予想される。

< テクニカル >

白金標準先物の日足をMACDとRCIで見た場合は、MACDではMACDが下げ止まりながら、シグナルは切り下げている。またRCIは短期が下げ止まり、長期は上昇するなど強気に転換する動きに思える。特に日足は10日移動平均線が位置する3824円を超えると40日移動平均線の3861円の目標が強まると思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行ってください。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 908,800 円(2022 年 5 月 30 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 36,080 円(2022 年 5 月 30 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-3249-8827 (受付時間:平日 8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>